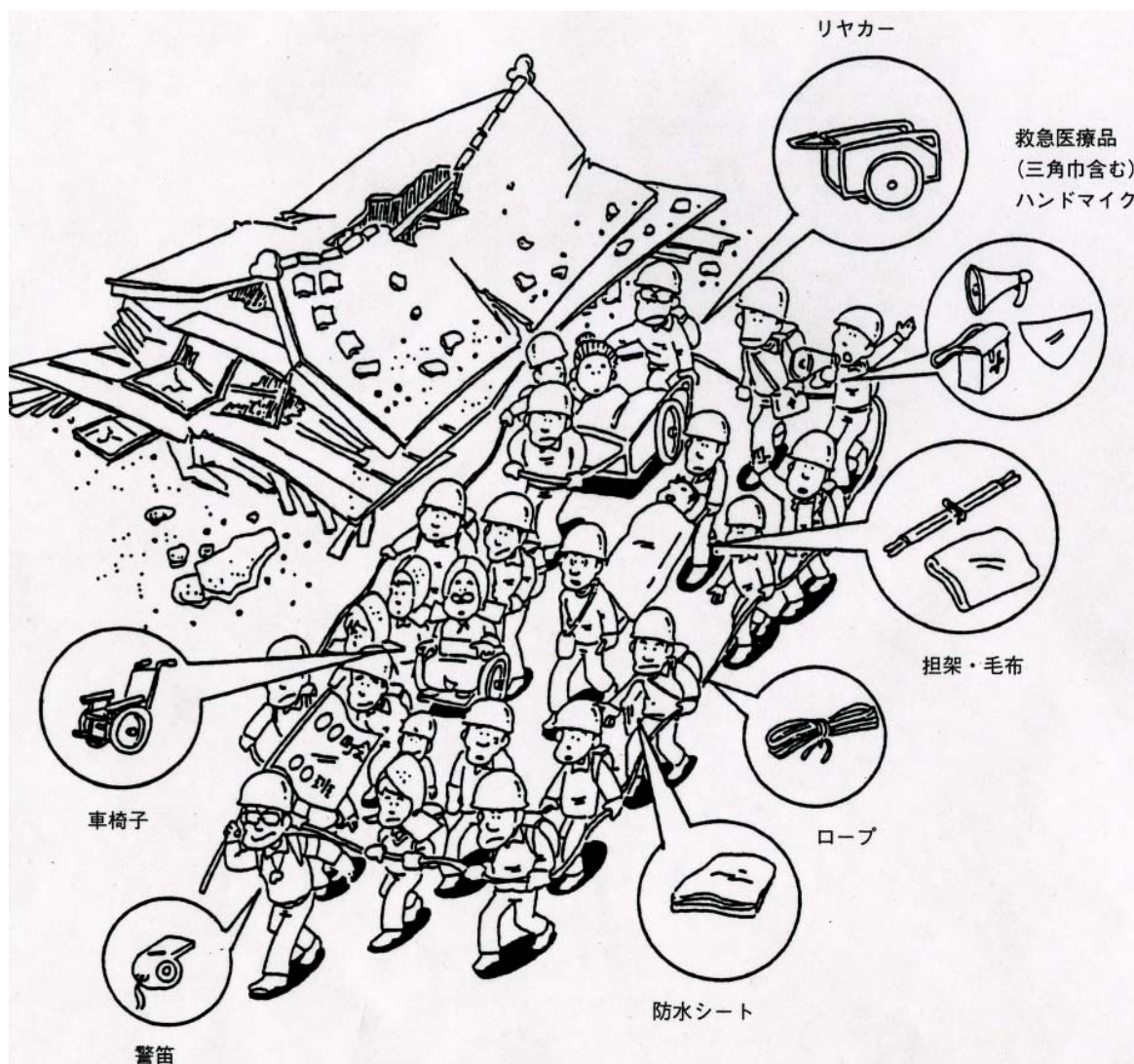


4 避難誘導活動における資機材の活用要領

No. 1 自主防災組織による避難誘導活動



使用資機材

- | | | | | | |
|---------|--------|---------|----------|--------|-------|
| 1 誘導ロープ | 2 リアカー | 3 車椅子 | 4 ハンドマイク | 5 担架 | 6 三角巾 |
| 7 救急医療品 | 8 警笛 | 9 防水シート | 10 毛布 | 11 町会旗 | |

避難誘導要領

- 一時避難場所に集合後、人員の確認を行い、不明な者がいる場合には手分けをし安否を確認します。
※避難開始前には、ガスの元栓の閉鎖及び電気のブレーカーの切断等、火災の発生防止を図ってからにします。
- リーダーの指示に従い、高齢者、子ども、負傷者、身体の不自由な人を助けながら整然と行動します。
- 寝たきり及び身体の不自由な者の移動は、リアカーや車椅子等を活用します。
※車椅子等は、病院及び公的機関に設置されている場合が多く、災害時の借用について話し合っておきます。
- 避難者がはぐれないようにロープを使い、各人がロープにつかまって移動します。
- 携行品は、当座の生活用品及び応急処置に必要なものを入れた、非常持出袋だけとし身軽に動けるようにします。
- 余震による塀等の転倒落下物が残っており、防災頭巾や座蒲団で頭を保護し、足元や頭上からの落下物に注意します。
- 広域避難場所に到着したら、出発時に確認した人員が揃っているかを確認します。

5 情報収集・伝達活動における資機材の活用要領

No. 1 自主防災組織による情報収集・伝達要領

使用資機材

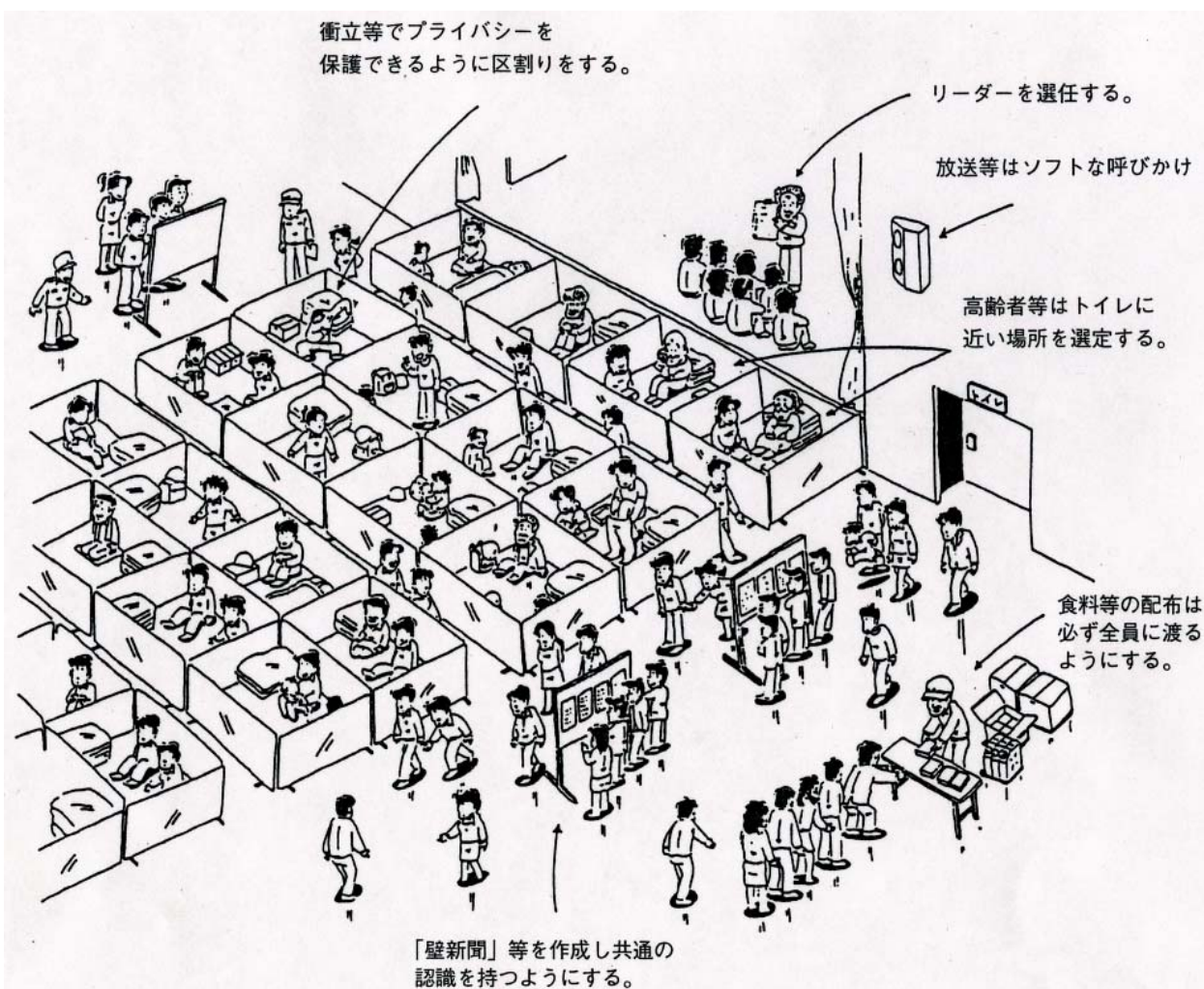
1 携帯用無線機 2 自転車 3 掲示板 4 回覧板 5 携帯ラジオ 6 ハンドマイク

情報収集・伝達要領

- 地震後は根拠のないデマが流れやすく、また異常な心理状態のため冷静な判断力が失われており、デマを安易に信じてしまいやすいため注意します。
- テレビやラジオによる正確な情報を入手することが大切であり、停電後も考慮して電池式ラジオを携行します。
※ラジオは常時開局（スイッチを入れた状態）にしておきます。
- 火災や避難等の重要情報は必ずメモなどをするとともに記憶しておくことが大切です。
- 情報を入手した場合は、必ず情報源を確かめます。また、周囲に伝える際には何処から出された情報であるかを伝えるようにします。
- 高齢者だけの世帯や身体の不自由な人等には、情報が不足しやすく不安も大きくなるため、積極的に正しい情報を伝えるようにします。
- 消防・警察等から出される情報を伝えるため、自主防災組織の情報班を中心に連絡体制を強化し、正しい情報の伝達に努めます。
- 情報を伝える手段として、ハンドマイク、掲示板、回覧板等も効果的に使用します。

6 生活維持活動における資機材の活用要領

No. 1 避難所生活運営要領（体育館等）



使用資機材

- 1 ビニールシート 2 仮設トイレ 3 飲料水（ポリタンク・簡易組み立て水槽等）
- 4 炊飯装置 5 非常食 6 長テーブル 7 簡易衝立 8 発電機

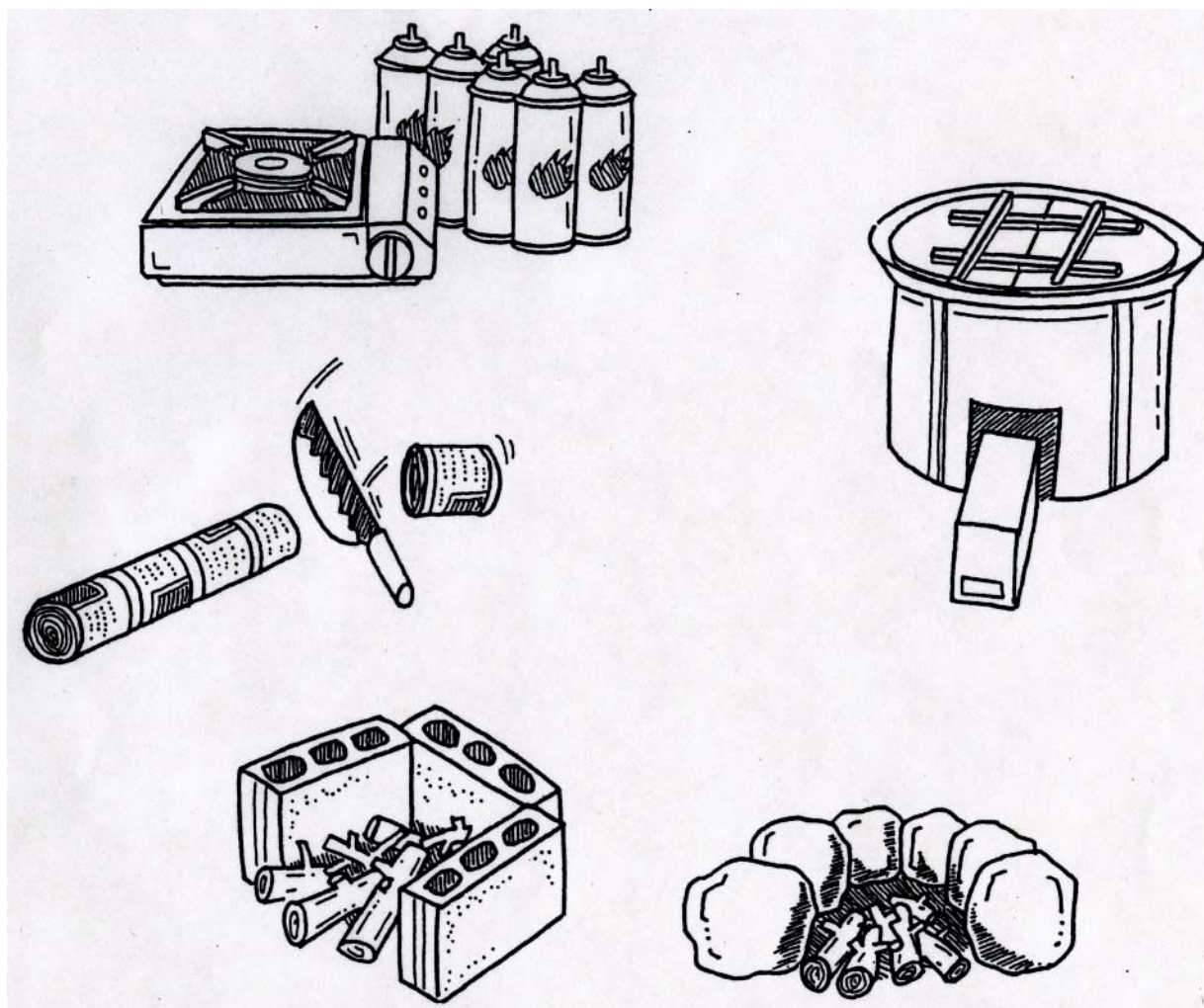
避難所生活の基本事項

- 避難所は行政機関が想定している場所を基本にします。
- 早期に避難者の総意によるリーダーを選任します。
- 食事・トイレ掃除・水汲み等の作業分担をリーダー中心に決定し、掲示板等により全員に徹底をします。
- ボランティア組織の協力が受けられる場合は、任務分担を明確にし、任せっきりにしないようにします。
- 校内放送等を使う場合の呼びかけは「避難所の皆さん」というような言葉は使わずに、「〇〇ファミリーの皆さん」等のソフトな呼びかけを心掛けます。
- 災害時要援護者のスペースを優先的に考え、高齢者等はトイレに近い場所になるようにします。
- 衝立等で適宜プライバシーが確保できるように区割りを考えます。
- 食料等の配布にあたっては人員の把握を行い、全員に渡らないような場合はトラブルを防ぐため、大方の理解を得やすい災害時要援護者（子ども、老人、障害者等）への配布を優先させます。
- 避難所備品台帳（名簿・物品請求書等の様式）を作成し管理をします。
- 小規模応急給水槽等を設置し、生活水の確保をします。
- 救護所を確保し、冷暖房機器を設置し傷病者等の発生に備えます。
- 想定された避難所以外の施設等を使う場合には、積極的に区市町村等に連絡することが大切です。
- 避難所に対する「壁新聞」等を作成し、共通の認識を持てるようにします。

№. 2

機材名

避難所生活用の生活用品（炊飯器具）



炊飯器具の確保要領

<簡易ガスコンロ>

- カセットボンベは災害時でも比較的手に入りやすいため、簡易ガスコンロを普段から備えます。
- カセットボンベは数日分として、6本程度を準備しておきます。
- カセットボンベは可燃物ですから、置き場所などに十分な注意が必要です。

<かまど>

- かまどは、ブロックを並べたり大きめの石を使って作ります。
- 阪神・淡路大震災の際にも薪になるものは手に入りました。しかし、薪が手に入らないような場合には、新聞紙等の紙を筒状に固く巻き、5センチ程度に切って使うと火持ちが良くなります。
- 火力が弱いため、鍋等は蓋が必要です。
- 冷たいおにぎりとパンだけでなく、温かい物を食べられます。

<災害用コンロ>

- 燃料も灯油を使っており、長時間使用が可能になります。また、火力も強いものです。
- 災害対策用としてだけでなく、町のお祭り等の各種行事にも使うようにし、普段から備えることが大切です。
- スチール製の鍋や釜は錆びやすいため、使い終わった場合には油をひいてから収納します。
- もし、鍋や釜が錆びてしまったら、食用油をひいて空焚きをすると錆が浮き上がって取りやすくなります。

No. 3

機材名

避難所生活用の生活用品（生活用水）



生活用水の確保要領

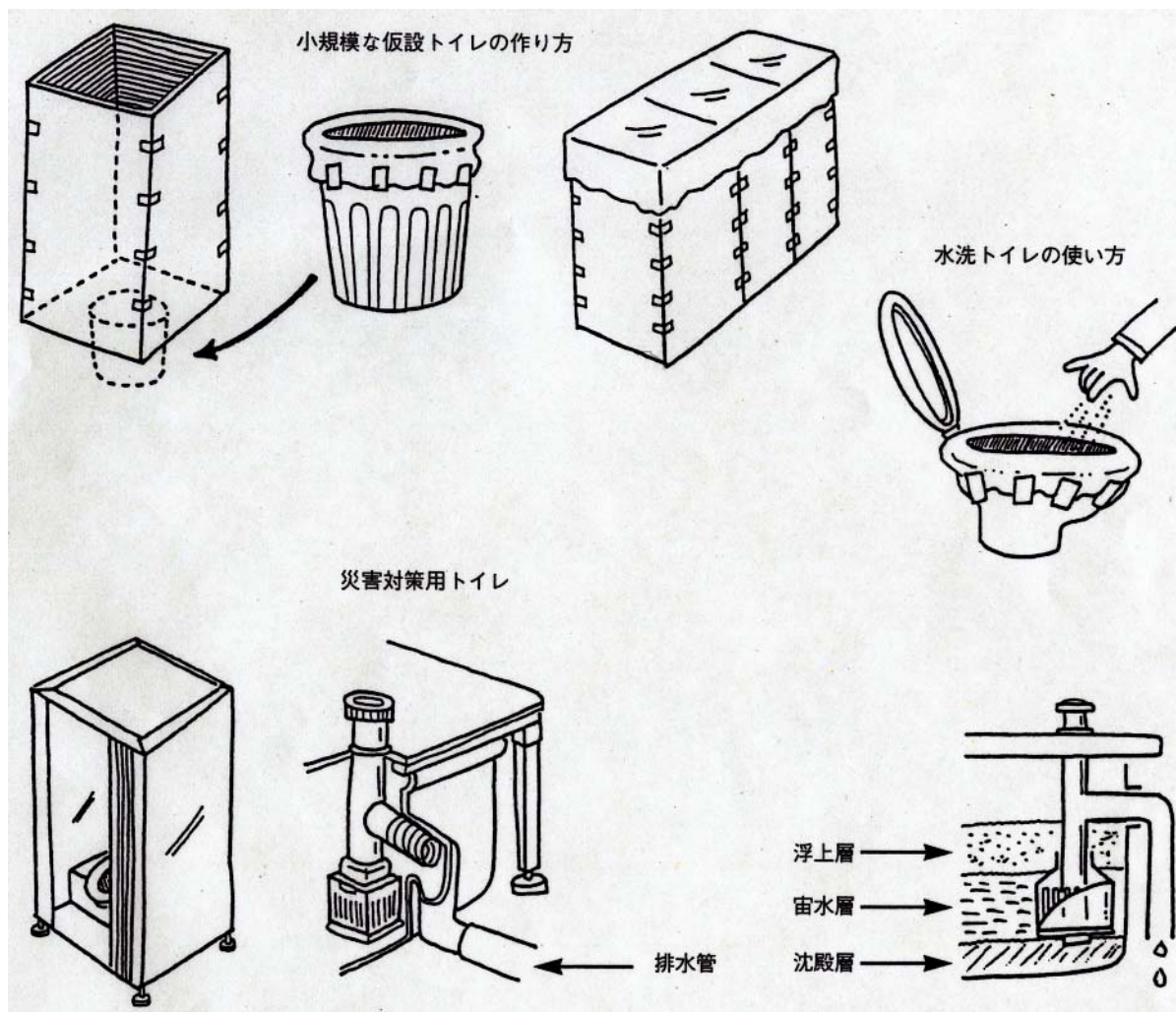
<日頃からの備え>

- ドラム缶に雨水を普段から貯めることにより数日分の用水になり、火事の場合の消火にも使えます。
- 最も簡便な物でありながら十分な水を蓄えられる物としてビニール袋が便利です。ビニール袋が薄い場合には何枚か重ねて使います。
- ポリタンクは便利な物ですが、大きな物は場所をとり普段は邪魔になり易く、いざという時に水を入れてから、重くて運べないという場合も考えられます。
- 家の中に多量の水を貯められる場所として風呂があります。しかし、きれいな水を確保するには、入浴後に浴槽を掃除して新しい水を入れておく習慣づけが大切です。

№. 4

機材名

避難所生活用の生活用品（仮設トイレ）



応急
トイレの
確保要
領

<小規模な仮設トイレの作り方>

- 災害発生当初はトイレがなかなか整わないため、できるだけ簡単に早くセットできるものを基本に準備します。
- 囲いは、ベニヤ板（厚さ 3～5 ミリ程度）を 4 枚使って縦に合わせます。
- ベニヤ板の縦の合わせ部分を布テープで接合します。
- 内部には、ポリバケツ等の容器を入れゴミ袋を中に入れて、バケツの縁にテープでとめます。
- 雨よけとして、透明なビニールシートを使うことによって明りとりにもなります。

<水洗トイレの作り方>

- 水が止まってしまう使えなくなった水洗トイレでも、上記のようなゴミ袋の使い方により活用ができます。
- ゴミ袋を 2 枚程度重ねて便器に入れます。この場合にも周囲を布テープ等でとめます。
- 用を足したらおがくず、砂等をかけて糞尿を覆い清潔さを保ちます。

<災害用仮設トイレ>

- 避難場所に設置する場合には、バキュームカーが汲み取り作業がし易い位置にセットします。
- バキュームカーの汲み取り作業が道路の渋滞等でできないことが予想されるため、糞尿の分離放流機能を備えたタイプの簡易トイレの方が多量に処理できます。
- お年寄りや身体の不自由な方が使いやすい、洋式タイプの設置も考慮します。

※分離放流機能とは、便槽内の糞尿が自己分離して「浮上層」「宙水層（液体）」「沈殿層」に分離する性質を持っており、微生物等の分解作用が時間の経過とともに促進されます。また、「宙水層」の液体分のみを抽出して層外に排出するため、多量の糞尿が処理できるとされています。